

## 京奈和自動車道（大和北道路） 環境影響評価準備書説明会の概要（7/9）

対象地域	：奈良市佐保川地区
日時	：平成18年10月19日（木）19：30～21：00
場所	：奈良市立佐保川小学校
出席者	：48名

### 【主な質疑応答】

- 前回の住民説明会時に、奈良市から南山城にかけての活断層が通っていると質問したが、その影響について検討されていない。また、地下40mのトンネルというのは近郊には無いと思うが。地震への影響について調査は行っていないのか。
  - 活断層への影響は、事前に広範囲の地盤沈下が起こるかどうか判断しており、環境影響評価では軟弱地盤等で広範囲の地盤沈下の恐れがある場合に検討することになっています。この地域は大阪層群という硬い地盤であり、広範囲の地盤沈下は起こらないと考えており、環境影響評価の項目として選定していません。  
地下40mというトンネルは近畿地方にはありませんが、東京ではいくつか事例があります。（県）
  - （準備書 p 4-1-34 を説明。）  
周辺地域には活断層と推定されるものがありますが、これは現地で調査したのではなく、上空から見て地形的に判断している資料です。活断層は図面で見るとJR線の東側となっていますが、施工時には詳細に調査を行う予定です。（国）
- 何故、パンフレットに記載されていないのか。
  - 環境影響評価は道路ができることによって周辺へ与える影響について行っており、活断層がどうなるというものではありません。道路による影響の概要をパンフレットに掲載しています。（国）
- 地下水への影響もあると思う。地下水について詳しく検討しているが、東南海地震の可能性も言われており、活断層について関心もあるため、情報提供をして欲しい。
  - 地質等については、今後詳細な調査を行う予定であり、その際に説明会も開催し情報提供していく予定です。（国）
- 大気質に関する質問を3点。  
換気塔の高さが周辺の規制により、北側8m、南側30mと聞いているが、高さの違いにより大気質への影響は異なるのではないかと。  
また、除じん装置等を設置する高さは、北側と南側換気塔でどのように設置するのか。  
パンフレット p7 のように、予測値は環境基準を下回っているがSPMは花粉症や喘息の原因と聞いている。日本の基準は0.10以下であるがアメリカでは基準値が0.05と聞いているが、これと比べると上回る事となるがその評価はしているのか。
  - 各々の高さは地上部の高さであり、換気塔には電気室や機械室等の大がかりな換気設備が必要であり、北側であれば地下部に30m程度の構造物が必要となります。  
地上部の高さの違いにより周辺への影響は大きく変わらず、影響はないと考えていま

す。

SPM は粉じんの小さいものであり、日本の環境基準は年平均値の2%除外値という高い方の値で評価しています。アメリカの基準は年平均値で 0.05mg/m<sup>3</sup> と把握しています。ちなみに北側換気塔の年平均値は 0.028mg/m<sup>3</sup> (準備書 p9-1-87 により説明) であり、アメリカの基準を下回っています。日本とアメリカでは基準の考え方が異なります。(県)

○ 8mと30mの高さで吹き上げる高さはいくらか。また拡散する範囲は。高ければより広く拡散し影響があるのではないか。

→ 換気塔の排気ファンにより上空へ吹き上げる構造です。

北側換気塔付近の一般的な横風 2.4 m/s を踏まえ、吐出速度 6 m/s で吹き上げ、高さ 80mまで吹き上げ拡散します。周辺への寄与濃度は環境基準の 1/1000 程度であり、その影響は南北換気塔とも同様です。なお、吐出速度は排気量や交通量等から決まります。

高さについては、北側は風致地区であり 8m、南側は規制がなく周辺建物の高さから 30mとしています。設置時には除じん装置や消音装置を設置します。配置等は実施設計段階で決めることとなります。(県)

○ 道路の一部がウワナベ古墳の池の下を通り、何m下を通るか決まっていらないが、池の漏水についてどう考えているのか。農家にとっては木簡よりも池の水の方が大事である。

→ 池の水を農業に使用されており、東側からJR線をサイフォンで越え取水していますが、水量が少なく貴重な水であると認識しています。

トンネルはシールドトンネルであり漏水しない構造ですが、地下水に十分留意しながら進めていくため、工事中は水位調査を行いながら事業を行う予定です。(国)

○ 換気塔やトンネルの立坑は何箇所造るのか。

→ 換気塔は坑口のみを設置し、中間立坑はトンネルが深いため設置しません。

トンネル掘削のための立坑は、地下部をシールドマシンで片押しで施工する予定であり、坑口付近に立坑を設置し施工します。(国)

○ 換気塔は風致地区のため8mと聞いたが、近くに清美センターの高い煙突もあり、道路も既にある。住民への環境影響をもっと考慮し、今後の実施設計段階で高くすることはできないか。

→ 環境影響評価は予測結果と環境基準等との整合を図ることにより、基準を守るために行っている制度です。換気塔は北側 8m、南側 30mですが、周辺への影響はほとんど無く基準を満たすこととなっています。

事業実施段階では、換気塔の形状、色彩、デザインを検討することとしており、その段階で説明する予定です。(県)

○ トンネル区間の地盤は調査しているのか。硬さや掘削して大丈夫かどうか確認しているのか。

→ 事業実施段階ではトンネル予定箇所で調査を行う予定です。

現時点では、地層は周辺地域のボーリング調査等の既存資料によりパンフレット p25 のように地層を推定しています。この地域は砂層(青色)と粘土層(黄緑色)が互層であり、砂層に地下水があります。

事業実施時はトンネル掘削地点でのボーリング調査を実施し設計を行います。(国)

○今後のスケジュールはどうなっているのか。

→ (パンフレット裏面により説明。)

都市計画決定までの手続き(意見書、評価書作成等)を行い、都市計画審議会で決定されます。決定まで今後1年～2年ほどかかる見込みです。(県)

→ 事業実施後は、地域毎に説明会を行い測量や詳細な設計を実施し、周辺道路等の取り付け協議を行い再度説明し設計に反映します。その後用地買収のための幅杭を設置し用地交渉となります。

測量から設計まで約1～2年、用地買収の状況は現時点で不明ですが、事業化後は目標を定めて公表し、事業を進めていく予定です。

全体約12kmを一度に工事するのが難しいと考えられ、どこからどう工事を進めるか、何年かかるかも事業化後に示していくこととなります。(国)

○ 地下区間のルートが大森高畑線から南側でカーブするのは何故か。ICとICを直線で結ぶ方が合理的ではないのか。平城宮跡を避けたのか。

→ パンフレットp2のようにルート決定までに地下水検討委員会、文化財検討委員会、有識者委員会等で検討し提言を頂き、平城宮跡や世界遺産、古都奈良の景観への配慮から地下構造とすること等から現在のルートを決定しました。

トンネル延長は5kmを越えると危険物搭載車両が通行できなくなるため「5km以内」、その他として「地形上から坑口の位置」、「地上への影響を考慮し公共用地(道路等)の地下」、「JR線を地下で通過」等から現在のルートとしています。(国)